

2023年度 静岡県言語聴覚士会 講演会 開催

2023年6月11日(日)、2023年度静岡県言語聴覚士会講演会をZoomを使用して実施しました。

泉会長による挨拶、講師紹介の後、それぞれの先生方に講義を行っていただきました。



10:00~12:00 「単一言語(monolingual)国から 多言語 (multilingual) 国への留学体験」 静岡県言語聴覚士会初代会長、元静岡県立こども病院リハビリテーション室 北野市子先生



北野先生は退職されてからお母様の介護をされ、看取られた後、言語聴覚学を英語で学びたいと2019年7月にオーストラリアに留学されたそうです。

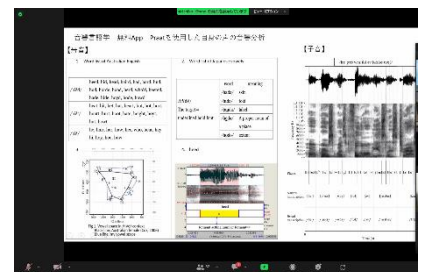
オーストラリアの歴史や民族性、地理や物価など概要を教えて頂き、ホームステイの苦労や学生寮での生活の様子を、写真を多数提示しながら教えて頂きました。

語学学校では、文法や読解などが分かっていても、話すことが難しく苦労されたそうですが、様々な困難を乗り越え、2020年2月に Macquarie 大学に入学されました。入学後も速い

上にオーストラリア訛りのある英語での授業がわからず、帰国しようかと悩む中、3月には新型コロナウイルスの影響で日豪間の旅客フライトが中止となり、日本に帰れないという追い詰められた心境だったそうです。同じ頃、学内でもコロナ感染者が出てキャンパス閉鎖、オンライン授業になったそうです。オンライン化されたことで、講義の録画を何度も見直せるようになったり、先生の言ったことが文字化されて提示されるようになったりと、北野先生にとっては逆に学びやすい環境となったそうです。2021年の2学年もキャンパス閉鎖は続き、3学年なりようやくキャンパスの授業も開始されたそうです。

大学生活は「艱難辛苦」と言われ、速い授業展開、速い英語、抽象度の高い課題(例えば「マズローの欲求5段階説に賛成か反対か」という課題。様々な論文を読んで自分の意見をレポートにまとめる)に難渋されたとのことでした。また、大学生活では、カリキュラム閲覧、論文提出など授業に関するほとんどをオンライン上の「iLearn」というものにアクセスすることで管理されていましたが、まず「Academic Integrity(学問の誠実性)」「Turnitun(論文盗用防止)」のビデオを見てテストを受け、85点以上取れないとアクセス不可等、大学生活は常に緊張感があったそうです。

3年間で24科目履修されその内容を詳しく教えて頂きました。例えば「音響言語学」では「Praat」というアプリを使用し、発話をサウンドスペクトログラムで表されたものを分析していく、するとサウンドスペクトログラムを見ただけで何と話しているかわかるようになること、第一フォルマントと第二フォルマントを分析し、英語と日本語の母音の面積の違いをレポートし褒められたこと、「音声生成学」では発話時の造影画像を見て何の音を生成しているか分析すること、「社会言語学」では人々の階級と言語の関係、「心理学入門」では“脳と心の幻覚と障害”で成人の吃音には催眠療法のエビデンスがあること等々です。



実習では Zoom セッションやグループセラピー、家庭訪問などがあり、実習で学んだことを ICF に当てはめてレポートを書く課題を出されたそうです。

大学では「Critical Review Literature (批判的に文献を読みなさい)」と教えられ、卒論でも既存の論文を批判的に考察し、発展的な実験を提案することを求められたそうです。

オーストラリアの歴史とともに言語の変遷も教えて頂きました。現在は英語が公用語ですが、200以上の言語が存在し、国勢調査では家庭での使用言語を聞かれる欄もあり、言語計画策定が政府の重要課題となっているそうです。また、アボリジニーなどの絶滅言語の歴史と再生復元過程を研究もあるとのことで、言語がオーストラリアの文化にとって大切にされていることがわかりました。

世界の人類の約6割がマルチリンガル(多言語話者)だそうです。バイリンガル教育について、インプットの量を同等にすれば可能であり、例えば父親が英語のみ、母親がフランス語のみの家庭では、その子供は一語文からバイリンガルとなり、父親には英語で、母親にはフランス語で話すようになるそうです。障害児のバイリンガルについて、日本では社会に合わせ、家庭では英語を話している子に対し、日本語を尊重するように勧めることが多いそうですが、オーストラリアでは母国語を尊重するように勧めるそうです。また、障害児でもバイリンガルは可能とのことでした。

質疑応答では、多言語環境に置かれた障害児がリハビリに来た場合の対応について質問があり、それに対して、家庭では母国語を大切にすること、STは日本語でも自信をもってセラピーを提供することのお答えをいただきました。ほかにも、北野先生でも泣きたくするような体験をされたことに驚いた、とても貴重なお話を伺った、いくつになっても学ぶことは大切と刺激を受けたなどの感想が寄せられました。

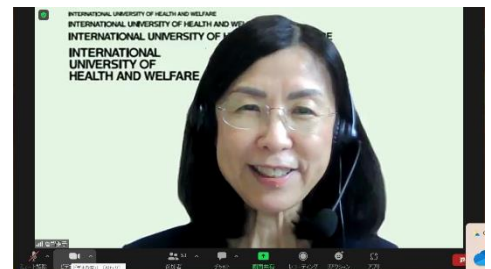
13:00~15:00 「摂食嚥下障害：評価後の根拠ある介入」

国際医療福祉大学 言語聴覚学科 教授 倉智雅子先生

摂食嚥下障害に対し、嚥下の神経機能のどこの部分の障害か、病態との関連を把握し、神経機構のどの部分にどのようにアプローチするかを具体的に教えて頂きました。

まずは嚥下の神経機構の説明で、口腔器官からの感覚神経(IX舌咽神経、X上喉頭神経)を経て延髄の「感覚核、嚥下中枢、運動核」から運動神経を通り、神経筋接合部に刺激が伝わり嚥下筋が働きます。その際に大脳皮質・皮質下からの入力も大切で、素早く効率的に安全、確実に嚥下反射が惹起するよう関わっています。脳卒中の仮性球麻痺の方はここが低下しやすいとのことでした。

それでは、神経機能の理解をどのように介入に結び付けるかですが、例えば「抹消から嚥下中枢への感覚入力が足りない場合」は、舌神経と上喉頭神経を刺激する必要があり、thermal-tactile stimulation(前口蓋弓冷圧刺激)、のどのアイスマッサージ、カプサイシン(サブスタンスPの分泌を増やし嚥下反射を改善させる)、口腔ケア(サブスタンスPが増える)、感覚神経電気刺激(ジェントルスティム)といった方法を教えていただきました。また、喉頭挙上低下、食堂入口部開大不全など「運動出力を改善したい場合」は、筋トレ、可動域拡大、Maneuver、電気刺激(バイタルスティム)などの方法があること、「上位の脳からの下向性入力を強化したい場合」は五感を利用し、例えば食具を持つ(触覚)、食物を認識しやすい食器を選ぶ(視覚)、肉を焼くおいしい音を聞いてもらう(聴覚)などから、飲もう、食べたいとなるようにすることを教えていただきました。



病態の把握と介入方法の選択について、代表的な異常所見は、「嚥下反射惹起遅延」、「誤嚥」、「食塊通過の異常/残留」が挙げられます。「嚥下反射惹起遅延」の理由は、感覚入力不足や、嚥下中枢の障害が考えられますが、それに対し食べたいという気持ちを高める、嚥下中枢を活性化する刺激を増やす、覚醒を促すために、口腔ケアや感覚刺激強化、姿勢・食品・環境調整、自己摂取、薬物療法等が用いられます。

「誤嚥」に対して、誤嚥のタイミングが原因となる障害を見極めるうえで重要であり、嚥下前誤嚥、嚥下中の誤嚥、嚥下後の誤嚥について、それぞれの理由や対処方法を教えて頂きました。「残留」について、どこに残留するか、その理由と対処方法について教えて頂きました。またギャッチアップ30度ゼリーが危険な人もいて一律の安全姿勢、安全食形態はないことを強調されました。

訓練（therapy）について、狭義では神経や筋の変化をもたらすもの、広義には食品の物性や姿勢、摂取量や速度など代償手段を含めたものであり、種類として直接訓練・間接訓練がありますが、「要素別練習」（活動機能構造関連）、「課題指向的練習」（治療的学習）という活動再建の枠組みからの視点での名称も教えて頂きました。訓練では、「運動訓練の原則」、「神経の可塑性原則」に則っているかを考えた手続きを取ることが望まれます。「運動訓練の原則」は3原則5原理があり、特に過負荷の原理（抵抗運動など負荷をかけ、その量や頻度、期間等）と特異性の原理（目的とする運動を利用しているのか）が大切とのことでした。舌筋トレーニングには等尺性の抵抗運動が効果的で「ペコパンダ」を使用したトレーニングを紹介していただきました。舌骨上筋群トレーニングも多数紹介があり、顎の下にボールを挟んで顎で押しつぶす訓練は認知症の方にも行いやすいとのこと。呼吸筋トレーニングがパーキンソン病患者やALS患者の嚥下の安全性を高める機能が注目されていることも教えて頂きました。

お勧め文献として、「日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会、訓練法のまとめ」が挙げられました。

講演の最後に、倉智先生からは参加者に対し、「エビデンスの収集に努めること」「新しい方法の発見、開発を試みることを期待する、との激励もいただきました。

質疑応答では、「小児のダウン症にも舌の筋力は向上できるか」という質問があり、向上できるのではないとのことでした。ただ効果についてはぜひ質問者自身でも検証してほしい、とのお言葉をいただきました。また、参加されていた小島千枝子先生からのご提案で、倉智先生が提唱されている「Free Water Protocol」についてもお話していただきました。アメリカで1980年代から提唱されている方法で、誤嚥する患者でも「水」は好きなだけ飲んでいいという考えに、参加者からは驚きと感動の声が聞かれました。自由にとっても「口腔内を完璧に清潔にした状態で」「食事と食事の間に」などの注意点はもちろんありますが、水を飲まなかった群と比べて肺炎の発症率は変わらないとのことでした。重度の神経難病の方は適応ではないこと、QOLが高まることなども教えて頂きました。

講演会運営に対するアンケート

回収人数 40人 回収率 63%

（講義形式）

WEB開催が良い 21人 52.5%

情勢によって対応してほしい 13人 32.5%

どちらでもよい 5人 12.5%

会場開催が良い 1人 2.5%

(資料の送付について)

メールでデータ便の URL が届きダウンロードできた 39人 97.5%

メールでデータ便の URL が届いたがダウンロードできず、送付者に問い合わせた 1人 2.5%

(受講中画面共有できないことが)

なかった 40人 100%

(受講中、音声がか切れたことが)

なかった 34人 85%

あった 6人 15%

アンケート(WEB 講義の感想)

- ・入力できなかった際に迅速に再配信して頂き大変助かりました。事務局の迅速なご対応に感謝申し上げます。
- ・確認事項の資料がわかりやすく、大変ありがたいです。
- ・質疑応答でも勉強になることが多くてよかったです。
- ・いつも助かっています。
- ・スムーズに講義を拝聴出来て良かったです。
- ・滞りなくスムーズに行えた。音声や画質がとてもよかったです。
- ・自宅で子どもの様子を見つつ、参加できるので、とても助かります。
- ・移動時間が短縮されるので個人的には参加しやすいです。
- ・画面が小さかったので、若干みえづらかったが、それ以外はよかったです。
- ・交通費や時間の節約になるため参加しやすいのはとても良い点だなと思いました。ただ、他院の先生方との交流がしづらいのはデメリットだと感じています。現状はオンデマンドが最も参加しやすいと感じています。
- ・自宅から見ることができ気軽に参加できてよかったです
- ・会場型もいいですが、他県からの参加もできるため、こうした形もありだと思いました。
- ・自宅で講義が受けられてとてもよかったですと思います。役員の方は準備等ご苦労様でした。
- ・時間経過により、音声がか途切れたり音が割れたりすることがありましたが、こちらよ Wi-Fi 環境の影響と思われます(他の研修でも、同じような現象が起こるため)。移動の負担がなく参加できるのは、とてもありがたいですが、いずれ会場で顔を合わせて研修ができるとよいなと感じています。
- ・WEB でもとても分かりやすく、楽しく聞くことができた。
- ・申し込みから資料配布、運営まで、滞りなくスムーズでした。参加しやすかったです。
- ・現地開催の研修会だったら自分の家からの距離を考えて選ぶけど、WEB 開催だと素直に受けたい研修会を受けれるので、とても助かりました。
- ・WEB 講義だと画面共有でスライドが見やすいため、資料に載っていないことのメモが取りやすかった

音声映像ともに問題なく参加できました。自宅でも参加できるため様々な学会研修会にも申し込みやすいと感じます。

- ・場所を問わず、どこからでも参加できるのでありがたいです。
- ・手軽に聴くことができてよかった
- ・滞りなく研修を運営していただきありがとうございました。
- ・休日 1 人で子供を見ることが多くなかなか実地での研修に参加できないが、ウェブ開催であれば参加できるため継続して欲しい。
- ・貴重な講演をありがとうございました。トラブルもなく参加しやすかったです。
- ・どこにいても聞けるのがありがたい。講義が始まるまではビデオを on にとあるが、やりにくい。せめて3分前に一度とかにしていただけると行きやすい。
- ・WEB では手軽に講義が受講出来るという利点もある一方、ST 同士の横の繋がり等、コミュニケーションに繋がりにくい点はあると思います。
- ・開始から終了までの手順やネット上でのやりとり等、参加者のみにみてもスムーズに感じました
- ・今回も自宅が必要事項の対応をしながら落ち着いて講演の聴講が出来ました。

アンケート(北野先生の講義内容の感想)

- ・北野先生！北野先生が帰ってきました。そして、さらに拡大された知識とグローバルな思考をこの狭い日本人の ST にご教授して下さったこと、心から感謝申し上げます。ノーマライゼーションを越えて、皆同じ一時的なことばかりと言われる社会背景ばかりが広報される、しかし、差別や格差が水面下では昔よりも広がっている・・・そのような中での本日のご講義は、当然の大学教育、基本、学ぶ姿勢、努力、人など全てを網羅された先生の体験を元にして、「アイデンティティを持った日本の ST へのメッセージ」だったと思いました。リタイヤーの身ですが、明日からの臨床、初心に戻って頑張ります。本当にありがとうございました。
- ・留学をほんの少し体験できたかのような、とても興味深い、そして楽しいお話しでした。学ぶことの面白さ、学問の奥深さをあらためて感じた時間でした。貴重なお話を聞く場をつくっていただき、ありがとうございました。
- ・北野先生のお元気なお声を聞くことができ、五十嵐先生もおっしゃっていましたが、私も感激しました。貴重なご経験のお話を聞かせていただき、ありがとうございました。小学校でも英語の学習が始まり、小さい頃から英語塾に通う子が増えています。今日の先生のお話で、環境的な要因もあってバイリンガルになるのはなかなか難しく、母国語を尊重することがまずは大切であるということを改めて教えていただきました。御前崎市でも、いろいろな国から来られているお子さんが増え、幼稚園保育園の段階から悩ましい問題が山積しています。お子さんの発達は、言語を抜きにしては考えられないので、今後はもっとよく考えて取り組んでいきたいです。ありがとうございました。
- ・普段聞くことがないグローバルな話を聞くことができて面白かったです。
- ・海外での経験を聞かせて頂き、モチベーションの up につながりました。
- ・パワフルなご講義に元気をいただきました。
- ・刺激の入力の大切さが分かった。
- ・写真や動画が多く、イメージを共有しやすかったです。

- ・通常の講演では、聞けないようなお話で、興味深い内容でした。
- ・オーストラリアの歴史や文化も交えて、留学の大変さや楽しさをお聞きすることができ、とても貴重な講演でした。同じ科目でも日本の大学の課題とは全く異なり海外らしい考え方にも触れられ、自分の考えを述べることや記述することの難しさ、大切さを学ぶことができました。
- ・心待ちにしていた北野先生の講義でした。いくつになっても自身の興味のある分野を勉強する先生の姿勢にとても刺激を受けました。
- ・退職後、さらに自分を磨くために留学されて、その経験を臨場感あふれる紹介で北野節がさく裂し、とてもうれしく拝聴しました。学ばれた内容の紹介も大変勉強になりました。
- ・北野先生が、言葉が通じないことや文化の違いに強いストレスを感じ、大学を考えるまで追い込まれてしまったという事に驚きました。不登校支援を行うこともあるので、先生が体感された事を伺い、子どもを理解する上で、参考にさせていただきたいと思います。
- ・久しぶりに北野先生のお顔を拝見でき嬉しかったです。他の皆さんも同じだったと思います。海外の視点を知れて興味深かったです。
- ・日本以外の場所で、言語聴覚士として働くことは考え方や地域性、使用する語の違いなど様々な難しさや面白さがあると思った。
- ・他国での言語学教育の様子を教えていただいて、自分たちの受けた教育との違いを知ることができました。自分の意見をきちんと述べられること、文献を批判的に読めるようになり考察できること、自分の持つ文化や言語を大切に考えることなど、日本の中ではあまり取り上げられないようなことが、多言語共生社会では特に必要なことなのだと思います。自分も甘んじず、努力していきたいと思います。
- ・留学の大変さが知れました。
- ・音声分析がとても興味深かったです。また、先生の留学体験のお話も楽しく、とても貴重な時間を過ごせました。
- ・北野先生のパワフルさに元気をいただきました。ありがとうございました。オーストラリアの言語聴覚の教育内容、とても興味深く聞かせて頂きました。特に批判的に論文を読む考え方、単一言語でない社会での言語に対する考え方など新鮮でした。いつまでも勉強する大切さ、常に基本に帰って考える大切さなど、自分自身に対しても考えることの多い研修となりました。本当にありがとうございました。
- ・ホームステイでも苦勞され、語学学校、大学の授業でも色々な困難がおりでも、それを乗り越えられ、学ぶ姿勢に感銘しました。多言語国家で学ぶからこそ学べること、歴史的な背景が言語に影響を及ぼすことなどとても貴重なお話でした。
- ・日本で当たり前としている考え方や介入方法が、海外での当たり前ではないということが分かりました。ご退職されてから海外で新たに勉強されたという北野先生のご経験をうかがって、私も、常に探求心を持ち、学び続ける姿勢を忘れないでいたいと思いました。
- ・久しぶりに北野先生の熱弁を伺えて、内容も去ることながら、元気が出ました。いつまでも勉強だなあと感じました。
- ・北野先生でもやめようと思ったほどなのでかなり大変だったと思いました。日本の言語聴覚療士養成校では受け身で学ぶことが多いような気がします。オーストラリアでは大学で教えてもらったことをさらに自分で考えるという違いがありました。臨床を行って行く上で深く考えることを行っていきたい。
- ・北野先生の学習に対する姿勢がとても刺激になりました。

- ・先生のバイタリティに圧倒されました。学ぶ楽しさを再確認することができました。
- ・興味はあってもなかなか体験できない現地での体験談がお聞きできてよかったです。北野先生のアグレッシブさに触発されて海外留学旅行がしたくなる様なお話でした。
- ・帰国できないという緊迫した状況の中でも、学び続けるという選択をされた北野先生は本当にお強いなと改めて思った。いつまでも学ぶ姿勢を持ち続けることを見習っていきたい。

アンケート(倉智先生の講演内容の感想)

- ・嚥下訓練の選択について見直す機会になりました。
- ・大変勉強になりました。
- ・嚥下のメカニズム・訓練法等を分かりやすくご説明頂き、学生時代に学んだことの復習になりました。また、free water protocol のお話等、新しい知見を得る事が出来ました。
- ・根拠を持って患者様第一で訓練を行うことの大切さを改めて感じました。まずは評価を正確に行い、その後本日の講義で培った知識をもとに訓練を立案していきたいと感じました。
- ・優しくて丁寧で、温かいご講義で、参加して本当によかったです。
- ・水を飲めるだけ飲んでもいいという考え方を始めて知った。そのためには徹底的な口腔ケアが必要となりそれを毎回実施できる環境が必須にするためには看護師やリハビリスタッフが口腔ケアの正しい方法の理解と実施が必要になると感じた。
- ・基本的な臨床の考え方について整理ができました。また、フリーウォーターは初めて知りました。自分で詳しく調べていきたいと思います。
- ・最後のフリーウォータープロトコルの話が印象的でした。QOL に目を向けることを再度考えていきたいです。
- ・臨床の際に、知っている知識をしっかりと活用しながら、訓練を行うことが大事では、と思いました。
- ・日々の臨床の中で、本当にこの訓練は効果があるのか、どんな訓練をすればいいのかと悩むことが多い中で、今回のように神経機構から復習できてとても勉強になりました。また、フリーウォータープロトコルも非常に興味深く、素敵な考え方だなと思いました。この度はありがとうございました。今後も精進していきます。
- ・神経機構の観点から嚥下に関する基礎的な知識から訓練までとても分かりやすい説明でした。しっかり根拠を持って負荷量や頻度、どこにアプローチすべきかなど、日々考えながら訓練を実施していきたいと思いました。
- ・頭ではわかっているつもりになっていたと日々の自身の臨床を反省する場面が多々あり、整理ができたと思います。今後の臨床への向き合い方をしっかり考えていきます。フリーウォータープロトコルは日頃のモヤモヤが解消できました。ご助言いただき、ありがとうございました。
- ・根拠のある訓練を進めるための重要なポイントをよく整理され、大変わかりやすくお話していただき、素晴らしい講演でした。講義の資料の中に K-point 刺激法も加えていただきたいことをお伝えください。
- ・講義内容が分かりやすく、興味を持って聞くことができました。
- ・摂食・嚥下から離れて7年になりますが、日進月歩で知らなかった知識もあり、とても刺激になりました。勉強を続けていきたいと思います。
- ・普段老健で働いていて、認知症重度の方、指示の入らない方への介入に悩んでいて、触覚刺激をと思えばスプーンを持たせて食べるように促していました。先生から五感への刺激とのお話があり、希望を持ってました。

- ・摂食嚥下の基礎から、現在の臨床で役に立つ知識まで色々なことを学ぶことができた。今受け持っている患者様一人一人の病態をしっかりと分析して訓練を行っていきたいと思った。
- ・嚥下訓練を漫然と行わず常に根拠を持った訓練を考えること、と学生の時(～就職しても)に常々言われていたことですが、久しぶりにこのようなお話を聞くことで、現在の臨床を省みることができました。ウォーターフリープロトコルという知識をいただいて大変有益でした。訓練中(口腔ケア後)に限って、とろみを薄めたり、なくしてみたり、とこっそり冒険してみたことが、少し似ているようで安心しました。日々、新しい知見を取り入れる努力をすることを忘れていたところです。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・説明がとても分かりやすく丁寧で、患者さんの気持ちに寄り添った素敵な方の講演が聞けて有意義な時間でした。摂食嚥下領域に苦手意識があったけど、この講演を見て頑張ろうと思いました。
- ・神経機構について再確認でき、どの場所で問題が起きているか・介入方法の選択を適切にしないとけないと思いました。
- ・患者様の障害・問題点へのアプローチは理由も考えて取り組む必要があることを改めて感じました。職場ではバイタルスティム、ジェントルスティムを取り入れているので、適応の方には積極的に使っていこうと思いました。最後にお話しされていたフリーウォータープロトコルも印象的でした。
- ・「根拠ある介入とは」が理論的に整理ができました。患者様のことを考えて全力で取り組む姿勢に刺激を受けました。明日への臨床の励みになります。
- ・根拠に基づいた嚥下訓練について学ぶことができた。実践していきたい。
- ・とても分かりやすい研修ありがとうございました。根拠のある介入について、日頃の臨床でどのように考えたら良いのか、改めて整理するととても良い機会になりました。最後にお話のあった free water protocol については初めて知りました。地域包括病棟で終末期の患者さんと関わることも多く、最後まで食べる、飲むということの選択が難しいと感じています。先生のお話を聞いて、とても大切な考え方だなと感じました。これについてもきちんと勉強していきたいと思います。
- ・頭の中がすっきりと整理された気がしました。筋トレの際は筋肉のタイプなども参考にしていこうと思いました。最後の water free protocol の話がとても興味深かったです。
- ・神経機構のどこにアプローチしているか、意識しながらリハビリする必要性を再認識しました。フリーウォータープロトコルについて、初めて伺う内容でしたので、自分でも学んでみたいと思いました。
- ・勉強になりました。フリーウォーターのお話は考えさせられました。看護師の世界でも共有されている考え方なんでしょうか？経管栄養の方でも、お水を飲みたがる入院患者さんは少なくないので...職場でも話し合ってみてみたいと思いました。
- ・基本的な内容も含まれるとのことでお話がありましたが、日々の訓練で何の疑いもなく思っていたことが実は誤った解釈であったということに気付いた箇所がありました。基本を振り返ることの大切さを痛感したとともに、ご講義を聞いてよかったと思いました。ご講演最後のフリーウォータープログラムのお話は今まで考えたこともなく、とても勉強になりました。患者さんの QOL を上げるということが、訓練の根本であらなくてはならないと改めて感じました。
- ・何回伺っても、復習になり、自分がしっかりとやれているかの確認ができます。
- ・トロミ介入する上で神経機構をしっかりと理解し根拠をもって行っていきたい。トロミなしの水を飲むのを行っていきかけたが躊躇していた。飲む上での時間(食事と食事の間)などを参考になり試していきたい。
- ・とても参考になり、わかりやすかったです。

- ・肺炎にならないなら水を飲んでいいのじゃないか、という考えに深く共感しました。エビデンスを積み、今後広く普及されて欲しいと思いました。
- ・基本に立ち返り学ぶ事ができました。日々logicに基づくリハビリは大事だと感じています。ただ目的とする部分へのアプローチを実践できたとして、日々(もしくは定期的に)その効果を確認するためのアウトカム設定に苦慮しています。特に舌骨上筋群に対してのリハビリ手法は増えてきていますが、効果が評価しにくいと感じています(論文に明記してある頭頸部 MRI やエコー評価等あるのですが日常的には使用しにくい) 今後、上記内容についても何かしら助言があれば教えて頂きたいと思いました。
- ・評価やエビデンスに基づいた嚥下訓練の立案の根幹になる様なお話がお聞きできました。今後もより多くの利用者様に還元できる様より具体的、効果的な内容や情報をアンテナ高くキャッチして臨床の場で提供できる様にしていきたいと思いました。
- ・成人嚥下について学びなおす機会になった。最後に話されていた free water protocol についても、なるほど、と目から鱗だった。

アンケート(2022年6月~2023年6月まで参加した研修会・学会で、よかったもの)

- ・横浜嚥下研究会
- ・大塚ウェビナー(zoom 配信)
- ・「成人期における発達障害の傾向がある方への理解と対応」が患者さんや職場の人、自分自身にも使える内容でとてもよかったです。
- ・側臥位法の研修会が印象的でした
- ・ST 講習 進行性疾患に対する意思伝達装置の選択
- ・日本認知症ケア学会 東京大学死生学セミナー
- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会
- ・第 28 回摂食嚥下リハビリテーション学会/第 46 回嚥下医学会